

令和5年度 事業報告

法人事業概要

ここ数年間、我々の生活様式を一変させてきた新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月に、法的取扱いが2類から5類に引き下げられたことにより、マーシ園でも各種行事の復活や面会・外出・外泊の規制の緩和等、少しずつコロナ禍前の活動的な生活が戻ってきました。しかしながら、弱毒化してきているとは言え、感染力は依然として強く、7月には木の香で感染者が出ましたが、大半が軽症か無症状でした。これからも感染症対策の手を緩めることなく、安心して生活できる施設づくりに努めます。

令和6年は元日の能登半島地震でスタートする大変な年明けとなりました。マーシ園においては建物等に大きな被害はなく、利用者、職員に怪我人もでませんでした。今後とも大規模な自然災害はいつどこで起こるかわからないということを肝に銘じ、令和5年度に策定した業務継続計画に基づき、平常時・緊急時の対応を強化します。

八乙女移転新築については、予定どおり令和5年末に敷地造成工事と実施設計を終えましたが、昨今の建設費の高騰に加え、新たに軟弱地盤対策として相当数の杭打ち工事が必要となったため、工事費が大幅な増額となり、設計変更等大がかりな減額作業を余儀なくされました。その結果、現施設の活用や建設面積の見直等を行うとともに、国県、南砺市、砺波市、小矢部市、福祉医療機構等関係機関のご理解もいただき、計画どおり着工する目途がたちました。

令和6年度は、いよいよ本体工事を発注いたしますが、しっかりと将来を見据え、各事業の持続可能な運営体制を構築すべく、高齢化、重度化、多様化等に対応したコンパクトな組織体制を整えながら、令和7年秋の新しい八乙女の完成に向けて、全職員が一丸となって取り組んでまいります。

法人財務状況

令和5年度の事業活動による収支は、将来を見据え、「すてっぷ」を廃止し、就労継続支援B型事業を八乙女に編入したことや、木の香における感染症発生の影響もあり、上半期は昨年同期を下回っていましたが、下半期は、関係機関との連携により、各事業所において稼働率が上昇し、結果的に当期活動増減差額は前年を若干上回る1,420万円の黒字となりました。

就労支援事業収益いわゆる授産製品の売り上げは、コロナ禍を乗り越え景気が回復傾向のなかで、なんと共同作業所の生産活動が年間を通して安定し、ほぼ前年並みの1,665万円を維持しました。

施設整備の面では、八乙女移転新築用地造成工事と実施設計業務を終えたほか、設置後20年が経過した木の香機械浴を更新し利用者の利便性を確保し、グループホーム風の谷に外部避難経路を新たに設置し、災害等緊急時の安全性向上に努めました。

法人全体の財産の内訳は、資産の部で現金預金等の流動資産総額492,095千円、土地、建物、備品等の固定資産総額1,168,106千円で、資産合計は1,660,201千円となっております。

負債の部は、流動負債総額65,341千円、固定負債総額6,640千円で、負債合計71,981千円となり、差し引き純資産は1,588,220千円で、前期比88,614千円増となりました。